

中部支部

三田三郎, 神谷順一, 榊原正典
倉〇 62才, BI=2,400, 3年前にSputum cytology positiveにて気管支鏡検査を行ったがlocalizationを発見できず外来にてfollow upしていた。扁平上皮癌細胞が出没していたが, 本年2月血痰が出たため気管支鏡を施行したところ左B⁴B⁵分岐部に結節様の浸潤あったため生検施行し扁平上皮癌と診断し, 左全肺切除を行った。

7. 前立腺癌の経過中に発見された早期肺癌の1例

名古屋市立大学医学部第2内科
野尻 修, 山本正彦 杉浦孝彦
森下宗彦, 鳥井義夫
市村貴美子, 青木 一
橋上 裕, 鈴木雅之

同 第2外科

正岡 昭, 水野武郎, 田中宏紀
同 中検病理

柴田偉雄, 中村隆昭

症例は57才男, 大工, 昭和55年10月に当院泌尿器科で前立腺癌とその骨転移と診断され, 化学療法およびホルモン療法を受けていた。昭和57年1月4日, 発熱および咳嗽が出現し, 胸部X線上左上葉の肺炎様陰影を認め, 当科を受診した。1月12日, 気管支鏡を行ったところ, 左B₆に隆起性小病変を認め, 生検により, 扁平上皮癌と診断した。昭和57年2月9日, 左下葉切除術を行った。

8. 最近3年間に経験したoccult lung cancer 6例について

聖隷三方原病院 松本ゆづる
滝沢茂夫, 沖 島助, 鹿内健吉
近年肺癌の増加に伴い, いわゆるoccult lung cancerに遭遇する機会が多くなった。

我々の経験した6例は, いずれもB.I.400以上の男性で, 年代

は50代3名, 60代2名, 70代1名。発見動機は肺癌検診3名, ドック1名, 外来2名であった。このうち, 1例は気管上部発生 of 扁平上皮癌, 1例は左上幹に発生した肺門型腺癌で, レ線陰性にもかかわらず, 左主気管支, 右上幹に転移しており, 発見後4ヵ月で死亡した。

9. 肺癌, 他臓器及び呼吸器感染症における血清フェリチン値の比較検討

浜松医科大学第2内科

千田金吾, 本田和徳, 今井弘行
佐藤篤彦

近年血清フェリチンが腫瘍関連抗原として注目されているが, 肺癌のマーカーとする場合いくつかの問題が残る。最も問題となるのは炎症の関与であろう。気道病変主体の気管支炎, びまん性汎細気管支炎, 気管支拡張症では, 160ng/mlのcut off値をこえたものはなかった。一方肺結核, 肺炎のうち, 各々25%に偽陽性を示した。また肺癌例でのフェリチン値と白血球数の関係から, 炎症によるフェリチンの上昇の機序が示唆された。

10. 胸水中CEA値の検討

国立療養所東名古屋病院内科

大橋陽子

国立名古屋病院呼吸器科

小倉幸夫

同 薬剤科

竹田信也, 加藤正紀

前回は肺癌例(99例)の血漿中CEA値を健康人, 各種胸部疾患例と比較検討し, 肺癌例については更に病期, 組織型, 転移の有無, 臨床経過別に検討したが, 今回は胸水貯溜を来した肺癌26例について胸水中のCEA値を組織型, 胸水中癌細胞の有無, 血漿中CEA値との比較等について検討し, 更に結核性肋膜炎17

例の胸水中CEA値についても対比検討したので報告した。

11. 肺癌の放射線治療におけるCTと治療計画用コンピュータの利用に関する検討

浜松医科大学放射線科

田中良明, 西村哲夫, 後藤修一
中島容一郎, 不破信和
畠山真行, 金子昌生

肺癌の放射線治療において, CTと治療計画用コンピュータを利用して原体照射を施行することにより, 従来よりも精度の高い放射線治療が実施できる見通しがあった。原発巣並びに所属リンパ節を含む領域について, 病巣に適した治療線量域を設定し, これにより正常の肺組織への吸収線量を減らし, 肺線維症などの障害発生を予防するのに役立つことが期待される。臨床的には肺門型肺癌の縦隔進展例などに有用であろうと思われる。

12. 胸部X線写真上薄壁空洞を呈し, 喀痰細胞診で肺胞上皮癌と診断された1例

名古屋掖済会病院内科

山本直彦, 山本雅史

同 病理

佐竹立成

名古屋大学第1内科

岸本広次, 河地英昭, 下方 薫

今回我々は胸部X線写真上, 薄壁空洞を呈し, 喀痰細胞診で肺胞上皮癌と診断された症例を経験した。一般に肺胞上皮癌に空洞を伴うことはまれであるため, この空洞と肺胞上皮癌との因果関係に苦慮した。その後剖検され, 本症例の空洞は拡張気管支壁に沿って腫瘍が進展したいわゆる仮性空洞と考えられた。臨床上, 肺胞上皮癌のX線写真に空洞を認めた場合, 考慮されるべき空洞形態を示した点で貴重な症例と思われ報告した。

13. multilamellar bodyを有す